

暦(こよみ)と農作業

高山 邦明・齊藤 薫(千葉市緑区在住)

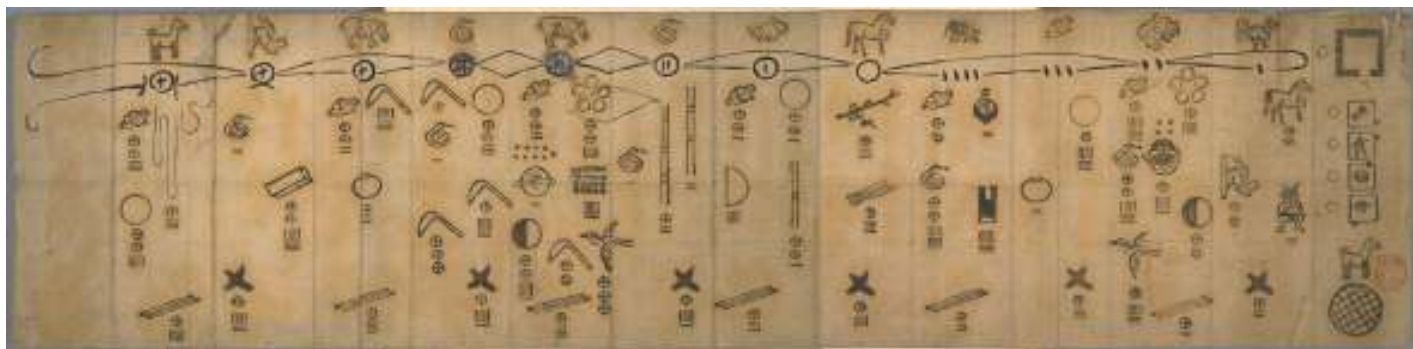
年末になると書店などに特設コーナーができて、たくさんのカレンダーが売られます。日本人の暦(こよみ)好きは今に始まったのではなく、昔からたくさんのが作られてきました。今でこそカレンダーと言えば、きれいな写真や絵が部屋のワンポイントになり、曜日や祝日を確認するために使われることがほとんどですが、元来、暦は日の吉凶を調べたり、農作業のタイミングを知ったりするために欠かせない道具でした。

そこで、暦と農作業との関わりについての話題を2つお伝えします。

南部絵暦(なんぶえこよみ)

昔の暦というは今とは違って文字だけが並んでいて字を読むことができないと中味が理解できませんでした。今のように学校の制度が整っていない当時は読み書きが不自由な人が少なくなかったので、絵を使って誰にでも簡単に理解できるようにしたユニークな暦が江戸時代の東北地方で作られました。

今の岩手県八幡平市になる旧田山村(南部藩領)では「田山暦(たやまごよみ)」と呼ばれる絵文字の暦が作られていました。田山暦は1770年代から作られ、全体はこんな感じです。



享和2年(1802年)に作られた田山暦。しめ縄のような横線に月が書いてある(たとえば、右から「I」が1月、「II」が2月)

たとえば、節分は右の図のように豆をぶつけられた鬼が泣いている絵で表現されていて、その下に描かれた棒2本は旧暦1月の日にち(2日)を示しています。

節分の絵



歳刑神の方向

田山暦の一番最初(右端)の列にはその年の神様の方向が描かれていて、いろいろな行動について吉の方向、凶の方向がわかります。源氏物語などにも出てきますが、日本人は昔から方向の吉凶にとても気を使っていました。さまざまな神の中で歳刑神(さいきょうしん)は刑罰を司る神様で、農家はその方向に向かって種をまくのを禁じられていました。左の絵で真ん中は種を保存する壺で、それを囲む四角に描かれた黒い丸がその方向を表していて、この場合は北北東が種まきをしてはいけない方向になります。

同じような種壺の絵は毎月の暦の中にも描かれていますが、こちらは「種まき吉」の日になりますので、その日を選んで種まきをすることになります。左の絵では図の上に縦の棒が3本(「III」)あるので3月、種壺の下に横棒が2本(「=」)あるので2日、つまり、3月2日(旧暦)は種まきに適した日ということです。



種まき吉

上の田山暦の全体がわかる絵の中に、鎌(かま)がいくつか描かれているのがわかると思います。これは稲刈りが吉の日で、この年では鎌が5つあるので、稲刈りに適した日が5日あることがわかります。昔の農家の人は暦を見て、なるべくこの日に稲刈りを

するようにしたのですね。

田山曆よりも少し後、1800年代に入ると同じ南部藩の盛岡でも絵曆が作られるようになりました(右の図)。田山曆と比べると全体に凝った絵が描かれています。田植えや稲刈りはその風景が描写されていて、当時の米づくりの様子をうかがうことができます。

古代日本では「歳(とし)」とは米づくりの期間で、収穫すると終わってしまうものだったそうです。人の年齢(とし)は何回収穫を迎えたかのことで、それだけ米づくりの曆も大切だったわけです。(高山邦明)

参考資料：岡田芳朗著「南部絵曆を読む」大修館書店 2004年



田植えと稲刈りが吉の日を示す盛岡絵曆

半夏生とタコ！？

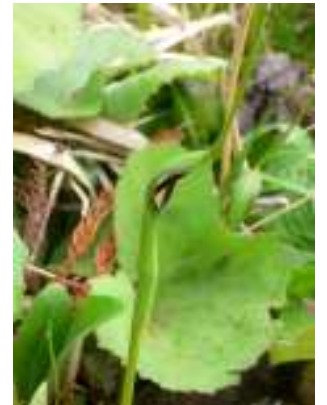
半夏生(はんげしょう)の前に折り込まれるスーパーのチラシにタコが特売になっており、当日はタコの売り場には「半夏生」の文字が書かれたポップが貼られていたので不思議に感じ調べてみました。

1年を24に分けて季節を表現したのが二十四節気(せっき)ですが(立夏、夏至など)、それをさらに3つに分けて全部で72の詳しい季節がわかるようにしたのが七十二候(こう)です。その中に梅雨明けも近い、夏至から数えて11日目の半夏生という暦日があり、今年は7月1日になっています。

半夏(はんげ)とは、この時期に田畑に生える烏柄杓(からすびしゃく)のことで、婦人科系の薬草として使われています。農家にとっては大事な節目で、この日までに田植えを終えないといけないとされていました。半夏生から5日間は農作業を休む地方もあるようです。この日は天から毒気が降るとも言われ、井戸に蓋をして毒気を防いだり、種まきを止めたり、この日に採った野菜は食べてはいけないとされたりしたそうです。

三重県の熊野地方や志摩地方の沿岸部などでは、ハンゲという妖怪が徘徊するとされ、この時期になってもまだ作業が終わらないことへの戒めとなっているようです。

一般的には梅雨が明け、田植えも終わる頃になりますが、農家ではこの時期の天候によって豊作になるか凶作になるかを占ったり、麦の収穫祭を行ったりなど大切な目安の日で、関西地方では、田に植えた稲の苗がタコの足のようになり根を張り豊作になるようにとの願いから、タコを食べる習慣があったためと知りました。日ごろの生活の中に昔の方々の生活風習や知恵がこのような形で現代のタコの特売につながっていると知り、農作業がどれだけ自然と関わってきたのかの一端を知るきっかけとなりました。今年は7月1日には豊作を願いながらタコをいただきたいと思っています。(齊藤 薫)



小山の畑に生えたカラスビシャク
(撮影 齊藤薫)



山たんけんレポート

第148回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2012年5月6日(日) 晴れ

今日はたくさん的高校生が参加しました。まずは雑木林を構成する代表的な樹種クヌギ、コナラ、イヌシデの樹皮による見分けやここにある針葉樹のスギ、サウラ、ヒノキの説明を聞きました。歩き始めてすぐヨコズナサシガメの集団に出会いました。成虫に脱皮直後の赤い個体もいました。メジロ、ウグイスの囀り、カワセミの鋭い鳴き声も聞こえます。二ホンカワトンボとシオヤトンボがたくさん発生していました。道中ずっと二ホンカワトンボがひらひら飛び姿が見られました。U字溝ではヤマサナエの羽化殻を3つ見つけました。その下の水の中には大きなヤゴが2ついるのが見えました。すくって見たらオニヤンマのヤゴでした。満開のハルジオンにはモモブトカミキリモドキ、数種のハナアブの仲間、コアオハナムグリなどたくさんの虫が来ていました。ヨモギやナズナなど食べられる草もたくさんある一方、クサノオウ、ムラサキケマンなどケシ科やタガラシ、ケキツネノボタンなどキンボウゲ科の毒草も見ました。

虫や花、目に飛び込んでくるものが多くなかなか歩みが進まない充実した観察会でした。

(参加者 大人8名、高校生10名、こども1名； 報告：網代春男)

第 133 回 下大和田 YPP「田起こし」

気温が上がり夏の陽気になりましたが、風があって心地よい作業日和。連休にもかかわらずたくさんの方が集まり、コシヒカリを植える田んぼを起こしました。水が少なかったせいか、一面雑草に覆われていて、草取りをしながらの大変な作業でしたが、みなさんががんばってくださったおかげで、午前中のうちに起こし終えることができました。記録的な早さです。午後は田んぼを均したり、畦を作る「くろ塗り」をしたり、苗代のビニールを外したりといった作業をして、田植えに備えました。シオヤトンボやカワトンボが飛び、シュレーゲルアオガエルが合唱を聞かせてくれて、季節が春から夏へと移り変わることを感じました。

(参加者 大人 32 名、高校生 1 名、小学生 11 名、
幼児 6 名；報告：高山邦明)

2012 年 5 月 5 日 (土) 晴れ



田起こしに使った鍬と一緒に記念撮影 (撮影 田中正彦)

第 134 回 下大和田 YPP「田植え」

いよいよ田植えです。2 週間前の田起こしの時にきれいに雑草を抜いたはずですが、もうあちこちから新しい草が伸びていたので、草取りをしながらの田植えになりました。120 センチごとに張ったロープの間に一人ずつが入り、30 センチ間隔の 4 列を植えていきます。初めての方や手慣れた方、大人や子供で進み具合は様々ですが、話をしながらなごやかな田植えでした。コシヒカリを植える田んぼが 2 枚あり、午前中に広い方を終え、午後、残りを終えたところでほぼ予定の時間になってしまいました。本当は古代米の田植えも進めたかったのですが時間がないので、植えるのに備えて草取りやロープ張りまでをしました。

古代米の田植えは翌週に有志の方がしてくださり、田植えを終えることができました。

皆さん、ご協力ありがとうございました。

(参加者 大人 22 名、小学生 9 名、幼児 3 名；
報告：高山邦明)

2012 年 5 月 19 日 (土) くもり



植え終えた田んぼをバックに記念撮影 (撮影 田中正彦)

第 78 回 小山町 YPP「苗代づくり」

2012 年 5 月 6 日 (日) 小雨

汗ばむ陽気の中、学校田んぼと YPP 田んぼの苗代づくりをしました。連休にもかかわらず学校の先生方や親子連れのみなさんが大勢集まってくださり、まずはにぎやかに草取りをしました。アシやマコモなど根を深く張っている草を抜くのは大変ですが、子どもたちも参加してがんばってくれたおかげでどんどんきれいになっていきました。苗代は田んぼの一角に泥を盛って作り、みんなでモミをまきました。学校田んぼはコシヒカリ、YPP の方は赤米と黒米です。最後に鳥よけのネットをかけて完成。生長が楽しみです。

(参加者：大人 24 名-うち先生方 14 名、子ども 11 名；
報告：高山邦明)



苗代にみんなでモミをまきました (撮影 高山邦明)

第 79 回 小山町 YPP「田植え～ばーと 1」

2012 年 5 月 20 日 (日) くもり

さわやかな晴天に恵まれ、コシヒカリの田植えをしました。草がびっしりと生えているので草取り組と田植え組に分かれて作業しました。雑草は地元で“つる草”と呼ばれるムツオレグサやミゾソバ、オモダカなどの常連たちでなかなか厄介な仲間です。泥の表面をよく見ると小さな草がびっしりで、これからが心配。草取りは田んぼの半分、田植えは 3 分の 1 ほど終えたところで時間となりました。

(参加者：大人 7 名、幼児 1 名；報告：高山邦明)



雑草を抜き終えたところから田植えです (撮影 高山邦明)

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 5月 6日 カワセミが田んぼと斜面林の間をしきりに行き来。トキワハゼが開花（高山）。
5月 12日 サシバが鳴きながら斜面林の上を飛翔していた（高山）。
5月 30日 斜面林でキビタキがさえずる。ホトトギスが鳴きながら谷津の上空を飛んでいた。スイカズラがあちこちで花を開き、よい香りを放っていた（高山）。
6月 2日 シオカラトンボが姿を見せ始める（高山）。

下大和田

- 5月 10日 オオヨシキリの声が響いていた。今季初（網代）。
5月 11日 ニホンアカガエルの子ガエルが畔に現れ始めた（網代）。
5月 19日 子どものメダカが田んぼでたくさん泳いでいた（高山）。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPP のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先（いずれも）：ちば環境情報センター（TEL&FAX：043-223-7807 E-mail：hello@ceic.info/）

ご注意：・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼第 135 回 下大和田 YPP「田の草取り」

5月に植えた稲がぐんぐん生長するこの季節、田んぼの雑草たちも負けじと背を伸ばしています。稲の生育を助けるために田んぼの草取りをします。夏へと移りゆく季節を感じながらひと汗流しましょう。小さなお子さんも参加できますので、みなさんでいらして下さい。

日 時： 2012年6月16日（土） 10:00～14:00 小雨決行

場 所： 千葉市緑区下大和田谷津田（ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。）

集 合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に 10:00（JR 千葉駅 10 番成東あるいは中野操車場行きのうちばフラワーバスで 45 分<千葉駅発 8:53、9:08、9:23 など> 料金は 520 円）

持ち物： 弁当、飲み物、長靴（長め、できればホームセンターで販売している田植え用長靴）、軍手、敷物など。

参加費（資料代等）： ちば環境情報センター会員および家族 100 円、一般 300 円、小学生未満無料

主 催： ちば環境情報センター 共 催： ちば・谷津田フォーラム

▼第 150 回 下大和田 7 月の谷津田観察会とごみ拾い

谷津はシュレーゲルアオガエルの子ガエルがあちこちの葉の上で見られる頃です。たくさんのチョウやトンボとも出会える季節です。ホトトギスの声も谷津に響いているでしょう。

日 時： 2012年7月1日（日） 観察 10～12 時 午後は田んぼの作業など自由活動 *小雨決行

場 所： 千葉市緑区下大和田谷津田（下大和田 YPP に同じ）

集 合： 下大和田 YPP に同じ

持ち物： 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費： 100 円（小学生以上、資料代など）

主 催： ちば・谷津田フォーラム 共 催： ちば環境情報センター

▼第 81 回 小山町 YPP「田植え ～パート 3」

苗代で育てた古代米の田植えをします。ホトトギスが鳴き、スイカズラの花が香る谷津でひと汗流しましょう。

日 時： 2012年6月10日（日） 10:00～12:30、小雨決行

場 所： 千葉市緑区小山町 リンドウ広場（ご連絡いただければ地図をお送りします）

持ち物： 飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、

参加費： 100 円（小学生以上、資料代など）

主 催： ちば環境情報センター

編集後記 小山では地元の大椎小学校とあすみが丘小学校の5年生が田植えをしました。去年は原発事故の影響が心配されて田植えは先生方や保護者の皆さんにお任せすることになりましたが、今年是最初から学校田んぼができるようになって何よりです。田植えも自然観察も子どもたちの歓声があがっており、最後に「おもしろかった！」と目を輝かせて感想を聞かせてくれました。草取り、稲刈りとこれから続く田んぼの体験をぜひ、思う存分楽しんでいただきたいと思います。

（高山 邦明）